

仙人通信 94 三壁山(1930 m)、高沢山(1906m)、エビ山(1744m)

三壁(ミカベ)山は、群馬・長野・新潟の県境に近い野反湖の西側に位置し、仙人通信 18 で紹介した八間山と野反湖を介して対峙する。梅雨の最中であるが、前線が海上へ南下したことから、僅かな晴れ間を期待しての登山となった。

野反湖のダムサイトの駐車場からのスタートである。イブキトラノウ・トリアシショーマ・ジョウシュウオニアザミ・ノゾリキスゲが登山口を飾る。湖の全体が望めるも、両側の山は雲に覆われ、今にも泣き出しそうだ。キャンプ場の舗装道の終りに、登山口の大きな道標がある。腰丈程の笹の原が登山道を埋め、その中にタニウツギのピンクの花と白樺が印象的である。1 m程の幅の登山道は踏み固められているものの粘土質のへな土でよく滑る。黄色のハナニガナ・シロバナニガナが清楚の花を付ける。マイズルソウ・ユキザサ・エンレイソウは花の盛りが過ぎてしまったようだ。振り返ると野反湖の静かな佇まいが望める。野反湖周辺の山は切欠保溶結凝灰岩層でクリームを帯びたレンガ色で密度の低い中新世後期の地層である。ついでながら野反湖は昭和31年に中津川支流の千沢の水源にあった2つの池をダムで遮って出来た湖で、群馬県にありながら水利は長野/新潟にあるようだ。登山口から20分程で2インチの塩ビパイプから水がチョロチョロと落ちる宮二郎清水である。木々はダケカンバやシラビソへと変わり、登りもやや急になる。高度が上がった為か、マイズルソウに花が見られる。ギンリュウソウが、ニョキニョキと顔を出すも、背丈が低いので様にならない。イワカガミの花弁も雨に濡れ痛々しい。コケモモの白い花・顎の紅いイワハゼの花、そして元気に白い花弁をピントしたツマトリソウやフスマが登山道を飾る。

40分ほど歩いた時点で、ついに霧の中に突入、傘をさしての登山となった。75分程で山頂に付くも、雨がドシャブリとなった。霧の先に動く物を感じて凝視すると、この山に生息するオコジョではなく子ウサギではないか・・・残念。雨の降りは呼吸しているように思える。山頂から先はプロムナードコースであることから、ポンチョを着て進む事にした。沢山咲くツマトリソウの中に数本株状になったイチョウランを発見した。思いがけない花にしばし見入った。30分ほどで大高山への分岐で、5分程で展望あるの高沢山の山頂である(霧で何も見えず)。ヤシオ躑躅の木の間だからヨウラクが濃い紫のボンボリ状の花を見せる。緩やかな尾根路には、開花前であろうかショウジョウバカマのような穂や、日当りではイワハゼが紅いお手玉状の実をつけている。僅かの登りでエビ山に付く(高沢山頂から45分)。15人程のグループの方が各々の傘の下で昼食中であった。せっかくの登山が雨と気の毒であるが、どの顔も明るく元気だ。キャンプ場へ下山コースでは、レンゲ躑躅やミヤマカラマツも加わりにぎやかである。小指の先ほどのイワなしを齧ってみると、酸味が口に広がる。樹林帯を抜けると笹原となり、湖と八間山が目の前に広がった。3時間50分、雨の中の静かな山のぼりでした。家路は、蛭ブクロや山あじさいの咲く牧水で有名な暮坂峠を越えてのコースでした。(h22.7.5)

野反湖



三壁山山頂

